

1. 歴史が息づく古都の町並み

- (1) 資料Ⅰから、京都市内の住所の特色を挙げてみよう。
また、資料Ⅰの住所のおよその場所を、地図帳で確認してみよう。

資料Ⅰ 京都市内の住所表示の例

下京区室町通五条下る大黒町
Shimogyo-ku Muromachi-dori Gojo sagaru Daikoku-cho

- (例) ・通りの名前が使われている。
・通りから北にある場所を「上る」、南にある場所を「下る」と表示されている。

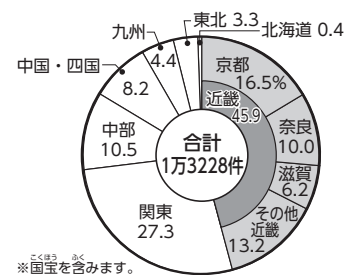
- (2) 京都市と奈良市にある、世界文化遺産に登録されている神社・寺院を地図帳で調べてみよう。

京都	奈良
(例) 清水寺、鹿苑寺、慈照寺、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社 など	(例) 東大寺、興福寺、唐招提寺、薬師寺 など

- (3) 資料Ⅱから、どのようなことが読み取れるだろうか。

- (例) ・近畿地方には全国の半数近くの重要文化財がある。
・京都府と奈良県で全国の約4分の1の重要文化財がある。

資料Ⅱ 地方別の重要文化財数の割合



- (4) 京都市と奈良市の伝統的工芸品を挙げてみよう。

京都	奈良
(例) 西陣織、清水焼 など	(例) 奈良墨 など

2. 古都の景観の保全に向けて

- (1) 資料Ⅲの2枚の写真を比較し、どのような変化が見られるか読み取ってみよう。

- (例) 電柱や電線が地中化され、観光客が増加した。

- (2) 伝統的な町並みで暮らす人々が、歴史的景観の保全に取り組んでいる理由を考えてみよう。

- (例) 自分たちの町にしかない魅力や歴史、伝統を後の世代に残したいという願いがあるから。

資料Ⅲ 2005年と2020年の二年坂の様子



本時のまとめ

◆ 京都と奈良では歴史的景観を保全するために、どのような取り組みを行っているのか、説明しよう。

- (例) 京都市では、歴史的景観を保全するために、建物の高さやデザインを整えたり、電線を地中に埋めたりすることが行われ、奈良市では、外観は保ったまま、建物の内部を店舗や宿泊施設などに改装して利用する取り組みが行われている。